第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

シマフクロウ

Ketupa blakistoni blakistoni (Seebohm, 1884)

早矢仕有子（北海学園大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：早矢仕有子，2026．シマフクロウ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 307-313．

Citation: Hayashi, Y., 2026. *Ketupa blakistoni blakistoni* (Seebohm, 1884). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 307-313.

フクロウ目 Strigiformes　フクロウ科 Strigidae

シマフクロウ

***Ketupa blakistoni blakistoni* (Seebohm, 1884)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠB類（EN）　D				
基準 A:　－	基準 B:　－	基準 C:　－	基準 D:　EN	基準 E:　－
D．成熟個体数が 250 未満であると推定される個体群である。 【推定根拠】 北海道における定着つがい数が約 100 であることから。				
評価分科会：　鳥類分科会				

概要

ロシア沿海地方を中心に生息する大陸亜種と、主に北海道と国後島に分布する島嶼亜種が存在する。かつては北海道広域に生息していたが、森林伐採・ダム建設・河川改修等を原因とする生息環境消失により絶滅の危機に瀕した。現在は東部を中心に約 100 つがいが生息する。魚類を主食とし、広葉樹大径木の樹洞に営巣する。1984 年から国の保護増殖事業により人為給餌・巣箱設置・個体識別のための足環装着が継続され、一部では生息地復元の試みが始まっている。飼育下繁殖も軌道に乗っている。

基礎情報

【形態】

世界最大級のフクロウで、全長 66～69 cm、体重 3,150～3,600 g（オス）、3,300～4,600 g（メス）。雌雄同色。全体に灰褐色で発声時には喉の白色が際立つ。全身はふ蹠まで柔らかい羽毛に覆われているが、趾（足指）には羽毛を欠く。鮮やかな虹彩は山吹色からレモン色の個体差がある。安静時は目立たないが、緊張時には耳羽が際立つ。近似するワシミミズクは、趾も羽毛に覆われていること、虹彩が橙色であることで本種と識別できる。

【生活史】

留鳥。一夫一妻の婚姻形態をもち、つがい関係は長期にわたる。ひとつがいが河川を中心に 10～14 km^2の行動圏を持つ。2 月上旬に交尾期を迎え、2 月末から 3 月中旬に 1～2 個の卵を産む。33～41 日間の抱卵を経て、3 月下旬から 4 月中旬に孵化する。抱卵および抱雛はすべてメスが行う。孵化から 47～61 日で巣立つ。満 1 歳あるいは 2 歳の春に出生地から分散するが、最長 5 歳まで親元への帰還を繰り返す個体もいる。3～4 歳で繁殖を開始し、30 歳を超えて繁殖を続ける個体も複数存在する。

【生息環境】

遡河性あるいは河川残留型のサケ科魚類が主要な餌資源であるため、生息には河川を中心とした水系が欠かせない。河川・湖沼、海岸線で狩りを行い、水際の落葉広葉樹林・針広混交林を昼間のねぐらおよび営巣地として利用する。サケ科魚類の他にも、ハナカジカやフクドジョウ等、多岐に渡る魚類を捕食し、海岸やタイドプールの魚類も餌とする。カエル等の両生類が魚類に次ぐ主な餌資源であり、エゾアカガエルの産卵地は、繁殖期の重要な採餌場所である。ほかにカモ類等の鳥類、野ネズミやトガリネズミ等の小型哺乳類も餌としている。繁殖には主に胸高直径 80 cm 以上の広葉樹の樹洞を利用するが、例外的に岩棚への営巣事例もある。

生息環境区分：	【陸域_中標高地】森林，湿地・湿原・細流，河川源流域，河川上流域，河川中流域，湖・ダム湖 【陸域_平地部 海岸部】森林，湿地・湿原，河川中流域，河川下流域，河口域，ワンド，小河川，ため池・池沼，潟・湖・ダム湖，海崖・岩浜・岩礁（磯），汽水域，潟・汽水湖 【海域（沿岸）_潮間帯】岩礁（磯），干潟
国土地域区分：	（1）奥山自然地域，（4）河川・湿地地域，（5）沿岸域

【分布域】

オホーツク海沿岸マガダンから日本海沿岸のロシア沿海地方およびサハリン南部、国後島と北海道に分布する。ただし、サハリンについては 1975 年以降の生息は報告されていない。色丹島では定着個体の存在は否定されてきたが、近年、複数個体の存在が示唆される調査結果が得られている。中国東北部や北朝鮮にも分布するとされるが、近年の生息情報は無い。大陸亜種と北海道を含む島嶼亜種に分けられる。

北海道においては、江戸時代から函館近郊の北海道南部における生息記録が存在し、明

治時代に札幌市および周辺市町村で採集された標本が現存する。アイヌの口頭伝承およびフクロウ送り（イオマンテ）の記録から、明治大正期には釧路地方、阿寒、白糠等の道東域、オホーツク海岸の斜里、日本海岸の石狩川や天塩川中～下流域、太平洋岸では十勝川筋、日高地方（浦河、三石、新冠）、胆振地方（鵡川、西別川、尻別川）、北海道南部では内浦湾岸、長万部、八雲での生息が確認できる。さらに現存する標本記録から、明治後期からの 20 世紀前半には、北海道北部の剣淵町、東部の釧路市、川上郡雪裡（現鶴居村）、十勝の大樹村（現大樹町）、大雪山系、千歳市支笏湖、恵庭村（現恵庭市）、新十津川での分布も確認できる。1950～1970 年代には、上川振興局美深町、北海道中央部の大雪山系、富良野市、日高振興局えりも町、千歳市、小樽市、常呂郡置戸町、北海道東部の帯広市、十勝幌加、釧北峠、弟子屈町、阿寒町、標津町、中標津町、羅臼町、根室市、清里町で標本あるいは文献資料による分布が確認できる。

現在の生息状況

【分布域の現況】

日本の高度経済成長期以降の森林伐採による天然林消失と人工林植林および工作物建造による河川環境悪化に伴う魚類生息環境悪化により、シマフクロウの分布域は縮小を続け、北海道南部、南西部の胆振地方、札幌を中心とした石狩地方、北海道北部から姿を消し、現在の分布域は北海道東部の知床半島に全生息地の 3～4 割が分布するほか、根室および周辺の根釧台地、十勝川上流域と大雪山系山麓部、日高山脈山麓部が主な分布域である。近年、四十余年ぶりに北海道北部での生息が確認され、2012 年、繁殖に成功したが、2016 年を最後に再び生息は確認されなくなっている。道北・道央・道南での分布域復元が大きな課題である。

【生息地の現況】

国による保護増殖事業が 1984 年に開始されて以来、天然の魚類資源が不足する生息地での補助給餌と、天然樹洞の代わりとなる巣箱設置が継続されている。2025 年 3 月時点で、道内 10 箇所で冬季を中心に生きた魚の給餌が実施されている。巣箱については総設置個数が 420 を超え、そのうち 199 個が現存し、72 個に繁殖利用歴がある。

一方で、法制度に基づいた生息環境保全は不十分である。シマフクロウ生息地の中で、鳥獣の営巣に影響を及ぼす恐れのある観察や撮影行為に環境大臣の許可を必要とする鳥獣保護区の特別保護指定地域に指定されているのは、知床鳥獣保護区のごく一部にすぎない。ほかには林野庁が設けている特定動物生息地保護林（現名称は希少個体群保護林）制度により、生息地の天然林保全と復元に取り組んでいる。

生息地への人の立ち入りに対して法的に規制されていないことで、複数の生息地で、バードウオッチャーやカメラマンが、本種の営巣行為や採餌行為に対して、深刻な妨害を及ぼしている。

【個体数の現況】

個体数は微増しており、明らかになっている繁殖つがい数は、地域別に知床で 32、根釧で 30、大雪山系で 16、日高山系で 10 である。これに繁殖歴の明らかでないつがいを加え、

北海道全域で約 100 つがいが生息している。毎年の巣立雛数も増加しており、2025 年度にはこれまでで最も多い 61 羽が巣立齢まで育ったことが確認されている。環境省による鳥類標識事業の実施により、精度の高い生息数の把握とモニタリングが継続されている。

存続を脅かす要因

とくに 1950 年代以降に激化した天然林伐採による農地および居住地への土地利用開発、林業による大規模森林伐採と人工林の拡大造林により営巣環境が消失した。河川へのダム設置、河川改修、河口部での遡河性魚類の捕獲、湧水地へのサケ・マス孵化場や養魚場の設置により餌資源が激減した。現在の主要な死因は道路での交通事故と列車との衝突事故、送配電柱や電線での感電死、養魚場での防鳥ネットや漁網に絡まることによる溺死などであるが、知床半島ではエゾクロテンによる巣内雛の捕食も相次いだ。遺伝的多様性は低く近親交配も頻発している。近年、カメラマンやバードウオッチャー、エコツアーガイドによる生息地への侵入が採餌や繁殖行動を阻害している。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，湖沼開発，河川開発，土地造成，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，交通事故，捕食（在来種による），人工構造物への衝突，分布・産地局限，近交弱勢
	（現在）	森林伐採，湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，スキー場，土地造成，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，交通事故，捕食（外来種による），捕食（在来種による），発電施設建設，シカ食害，人工構造物への衝突，気候変動，分布・産地局限，近交弱勢

特記事項

1984 年から国の事業による人為給餌・巣箱設置・標識調査・事故対策等が行われている。1993 年に種の保存法による国内希少野生動植物種に指定された後、同法に基づく保護増殖事業計画が策定され、事業が継続している。2025 年度 3 月時点で、道内 10 箇所で冬季を中心に活魚の給餌が実施されており、巣箱については 199 個が現存している。生息地の一部は、国指定知床鳥獣保護区特別保護指定区域に含まれているが、他地域では法的規制を伴う生息地保全は極めて不十分である。林野庁では特定動物生息地保護林（現名称は希少個体群保護林）を設定し、天然林の保全と復元にも取り組んでいる。シマフクロウの生息環境として重要な流域環境復元のために、根釧地域では魚類の移動を妨げる落差工の改良、魚道設置などの取組を継続している。世界自然遺産地域の河川では、治山ダムのスリット化により海と河川を往来する遡河性魚類の移動を可能にしている。

保護増殖事業の一環として域外保全の取組も継続している。釧路市動物園は 1995 年から飼育下での繁殖に成功し、その後、飼育施設も増加し、旭川市旭山動物園でも 2018 年に繁殖に成功、札幌市円山動物園でも 2021 年から繁殖に成功している。さらに本州の動物園でも 2019 年から飼育が再開され、現在は 3 県の動物園が飼育および繁殖に取り組んでいる。環境省釧路湿原野生生物保護センターでは、傷病個体の治療及び野生復帰に取り組んでいる。日本野鳥の会は土地購入等による保護区設置を 14 つがいの生息地で進め、

保護区内では広葉樹の森づくりにも取り組んでいる。

個体数および分布等の個体群に関する情報および国の保護対策は、以下のウエブサイトに公開されている。

・環境省北海道地方環境事務所「シマフクロウ保護増殖事業」
https://hokkaido.env.go.jp/post_9.html

また、シマフクロウを拡げる取り組みとして、HP の制作など普及啓発事業にも力を入れ始めた。

・環境省「シマフクロウと共に暮らす」
https://policies.env.go.jp/hokkaido/withfishowl/

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第４次 2019：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第４次 2018：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第４次 2017：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第４次 2015：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第４次：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第３次：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第２次：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	CR
第１次：	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni blakistoni*	E

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】絶滅危惧ⅠA 類(Cr)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種，保護増殖事業，国指定天然記念物，鳥獣保護管理法

参考文献

- BirdLife International, 2001. Threatened birds of Asia: The BirdLife International Red Data Book. Cambridge, UK.
- 早矢仕有子，1999．北海道におけるシマフクロウの分布の変遷–主に資本資料からの推察–．山階鳥類研究所研究報告，31: 45-61.
- 早矢仕有子，2009．生息地保全が大切ではないかμm –シマフクロウ–．山岸哲（編），日本の希少鳥類を守る，pp. 75-98．京都大学学術出版会，京都.

- Hayashi, Y., 2009. Close inbreeding in Blakiston's Fish-owl (*Ketupa blakistoni*). Journal of Raptor Research, 43: 145-148.
- 早矢仕有子，2022．シマフクロウ 家族の物語．北海学園大学出版会，札幌.
- 早矢仕有子，2023．絶滅危惧種シマフクロウを対象とした写真撮影者の特性および観光利用における問題点．保全生態学研究，28(1): 5-23.
- 日本鳥学会，2024．日本鳥類目録改訂第 8 版．日本鳥学会，東京.
- Omote, K., C. Nishida, T. Takenaka and R. Masuda, 2012. Temporal changes of genetic population structure and diversity in the endangered Blakiston's Fish Owl (*Bubo blakistoni*) on Hokkaido island, Japan, revealed by microsatellite analysis. Zoological. Science, 29: 299-304.
- Slaght, J. C. and S. G. Surmach, 2008. Biology and conservation of Blakiston's Fish-owls (*Ketupa blakistoni*) in Russia: a review of the primary literature and an assessment of the secondary literature. Journal of Raptor Research, 42: 29-37.
- Slaght, J. C., T. Takenaka, S. G. Surmach, Y. Fujimaki, I. G. Utekhina and E. R. Potapov, 2018. Global distribution and population estimates of Blakiston's Fish-owls. In: Nakamura F. (ed) Biodiversity conservation using unbrella species Blakiston's Fish Owl and the Red-crowned Crane, pp. 9-18. Ecological Research Monographs.
- Takenaka, T., 2018. Ecology and conservation of Blakiston's Fish Owl in Japan. In: Nakamura F. (ed) Biodiversity conservation using umbrella species Blakiston's Fish Owl and the Red-crowned Crane, pp. 19-46. Ecological Research Monographs.
- 山本純郎，2025．シマフクロウのすべて．北海道新聞社，札幌.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ketupa blakistoni blakistoni has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ketupa blakistoni blakistoni* is listed as EN under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area】Forest, Wetland/Marsh/Stream, River headwater, Upper river basin, Middle river basin, Lake/Dam 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】Forest, Wetland, Middle river basin, Lower river basin, Estuary, Inlet, Small river, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam, Sea Cliff/Rocky beach/Reef, Brackish water, Lagoon/Brackish lake 【Marine area (Coastal area)_Intertidal zone】Reef, Intertidal mudflat
Threat types:	Logging and wood harvesting, Lake development, River development, Wetland development, Field preparation, Ski resort development, Land development, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction,

	Vehicle collision, Predation (by alien species), Predation (by native species), Power plant construction, Deer feeding damage, Collision with man-made structures, Climate change, Limited distribution, Inbreeding depression
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Conservation and reproduction programs. Nationally Designated Natural Monument. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	早矢仕有子（北海学園大学）
Author:	Yuko Hayashi

公表年月：2026 年 3 月